

市測協の「平成29年新年賀詞交歓会」と「経営者研修会」開く  
関係者約110人が新年に向けて、更なる飛躍を誓い合う



平成29年新年賀詞交歓会で関係者約110人が協会の更なる飛躍を願う



主催者挨拶の尾川会長

(一社)福岡市設計測量業協会(尾川昇会長)の「平成29年新年賀詞交歓会」及び「平成28年度経営者研修会」は24日(火)、福岡市のグランド・ハイアット・福岡で開き、会員及び賛助会員と来賓の福岡市の財政局理事や幹部職員、国土交通省国土地理院九州方測量部長、顧問団の福岡市議会議員ら関係者約110人が出席し、新たな年に向けて協会の更なる飛躍と会員企業の繁栄・活躍を誓い合った。また、「平成28年度経営者研修会」では、講師に自衛隊福岡地方協力本部の松永康則本部長を迎え、「地域と防災支援活動について」の講話が行われた。

交歓会は、船津事務局長の司会で進行。主催者挨拶の尾川会長は「昨年、東北・北海道などで大きな災害が発生し、熊本地方でも震度7の大地震が2回



**福岡市幹部と来賓祝辞の三角理事**

あり、甚大な被害をもたらしましたが、福岡市はいち早く支援部隊を派遣し、迅速かつ的確に対応したと聞いています。また、福岡市博多駅前の道路陥没事故が発生しましたが、その際には官民一体となって1週間という超短期間での復旧を実現し、世間を驚かせました。当協会も福岡市の要請で、一緒になって即対応いたしました。地場企業



**来賓挨拶の齊藤測量部長**

業の特性を活かしたこのような対応は市民の安心・安全を守るためにも必要であり、感謝状もいただきました。当協会は地場企業の棲み分けを掲げ、要望していますが、今後、会員の増強と社会貢献活動の一環として、また、市民の安心・安全を確保するために道路危険箇所の調査実施や将来の地震対策としての国土調査実施の提案、自然災害・都市災害への対応においては異業種のコラボレーションが大切であり、地場企業との連携強化も図っていききたい」などと訴えた。



**来賓挨拶の松永本部長**

このあと、福岡市及び区役所の幹部職員の来賓紹介があり、福岡市の三角正文財政局理事は「市民生活を支える公共施設の長寿命化や計画的かつ効率的な更新等、また、公共施設の耐震化や地震、風水害など防災・減災などへの備えも必要です。このような中で、設計測量の技術が果たす役割は大きい。近年の担い手不足、労働環境の改善など様々な課題にも直面していますが、本市としては引き続き協会の皆様と意見交換を進め、業務の平準化発注のあり方や地場企業の採算性の確保、生産性向上など設計測量業が若い世代にも魅力あるものになるよう国土交通省ともしっかりと連携し、着実な取り組みを進めて行きます」と代表挨拶した。

このあと、来賓の国土交通省国土地理院の齊藤勘一九州地方測量部長と自衛隊福岡地方協力本部の松永康則本部長がそれぞれの立場から取り組み状況などについて挨拶し「協会の発展と会員企業の活躍を願う」と激励した。続いて、協会顧問団の福岡市議

会議員4人の紹介があり、代表の国分徳彦団長が「協会は表彰を受け、勉強会開催など諸々の実績を積み、実力のある団体であります。皆様にとって良き1年になりますように、顧問団



**福岡市議会議員顧問団と挨拶する国分団長**



**乾杯の今林顧問団専長**



**平成28年度経営者研修会**

一同、頑張っていきたい」などと力強く決意表明した。

福岡市議会議員の今林ひであき顧問幹事長の乾杯の発声で開宴。懇親会では福岡市OBの紹介などがあり、参加者らは新年に向けて協会の更なる飛躍と会員企業の繁栄を願って和やかに歓談した。なお、交歓会に先立ち「平成28年度経営者研修会」が開かれ、講師の松永康則本部長（自衛隊福岡地方協力本部・1等陸佐）が「地域と防災支援活動について」と題して講演し、九州における自衛隊の防衛

力・危機管理能力・災害対応体制や災害支援活動の実態、熊本地震の支援活動の取り組みなどについて講演した。

# 安心・安全な街づくりに貢献 福岡市設計測量業協会



(一社)福岡市設計測量業協会(尾川昇会長)は24日、平成29年新年賀詞交歓会「写真」を福岡市博多区のグランドハイ

アット福岡で開催。参加した会員らは、飲酒運転撲滅運動や道路危険箇所調査など社会貢献活動を通じて業界をアピールしていくとともに、福岡市と連携し安心・安全な街づくりに努めることを誓った。

賀詞交歓会には、来賓として福岡市財政局の三角正文理事や国土地理院九州地方測量部の齋藤勘一郎長、福岡市議会議員が出席したほか、会員およびメーカー関係者多数が参加した。

尾川会長は「福岡市民が安心・安全に暮らせるよう、協会として日々研鑽を重ねている。昨年末に発生した博多駅前の道路陥没事故の際には、福岡市からの要請を受け即対応した。このように地場企業の特徴を活かした対応は市民を守るためには不可欠なもの。今後とも会員の増強に努め、社会貢献活動の一環として26年度から取り組む道路危険箇所調査を引き続き実施していく。福岡市と連携を図り、安心・安全な街づくりに貢献していきたい」とあいさつ。

来賓挨拶では、福岡市の三角理事が「福岡市は住みやすいと感じる市民の割合が95・8%と過去最高となり、現在、活力に溢れ高い評価を頂いている。今後、都市としての国際競争力を確かなものとするため、福岡を次の「フクオカネクスト」を推進し、都市の成長と生活の質の向上の好循環を作り出す事業を展開をしていく。また、インフラ施設の老朽化は顕著で公共施設の耐震化や地震、風水害などと併せ防災・減災に向けた備えが必要となる。その際に設計測量の技術が果たす役割は大きい。設計委託の計画的な発注を推進し、地場企業の採算性を確保しつつ、円滑な施行に取り組みたいので協力をお願いする」と呼びかけた。

続いて、福岡市議会議員の今林ひであき氏の乾杯の首領で祝宴がスタートし、新年を祝つとともに、一年の飛躍を誓った。